

第7章 環境行動計画の実施と見直し

(1) 環境行動計画にそった活動の実施

環境行動計画を作成しても、これをかざっておくだけでは意味がありません。環境行動計画にそって教職員と児童・生徒の各々が責任を持って具体的な取組を進めていくことが重要です。取組の状況は定期的にチェックし、環境負荷の状況や取組の結果を記録しておきます。

また、実際に環境行動計画にそって活動を実施していくにあたって、第4章で実施した学校全体としての取組チェックに加え、教職員、児童・生徒個人としての取組チェックをすることもより効果的でしょう。

その方法として、例えば、個人用の取組チェックカードを全員に配付し、定期的に自己の取組状況を評価するなどの方法が考えられます。その結果を定期的(月毎等)にクラス単位、学年単位で集計し、壁新聞にして掲示するなど、学校内で共通認識を図っていくことが重要です。

なお、取組を継続的に進めるには、しっかりとした仕組みや体制の整備が必要です。第4章の取組チェックリスト「環境保全のための仕組み・体制の整備」を参考に、不備がないかなど点検してください。

個人用チェックカードの例

活動項目	期 日					合計
	/	/	/	/	/	
1 紙のむだ使いを減らします。						
2 むだな電気を消します。						
合計						

評価について
良くできた.....2点
だいたいできた.....1点
あまりできなかった...0点

定期的(週毎、毎日)に記録することで、意識付けを継続していく。
行動項目の空欄に、学年(学級)独自の項目を決めて取り組む。

(2) 活動結果の評価と見直し

活動結果の評価

活動結果は定期的に評価し、次の活動に結びつけることが重要です。

結果は、目標を達成したかしないか ×で評価したり、また目標に対する達成率で評価するなどの方法が考えられます。

また、取組の実績を過去の実績と比較して評価することも重要です。必要に応じ、他校との比較を行うことも考えられます。

環境行動計画の見直し

活動結果の評価をもとに、環境保全活動の効果があがるよう取組内容を定期的（少なくとも年度毎）に見直していく必要があります。また、より高い目標や新たな目標を設定するなど、必要に応じて環境行動計画自体の見直しをしていくことが望まれます。

